

今年度は新保育所保育指針の告示があり、翌30年度に施行となります。

新指針について外部研修に行った職員もいますが、全職員で内容を理解するために5回にわたり園内研修を行いました。

その中で私たちの行っている保育について、新指針にかなう保育をしているか、より良いものにしていくにはどのようにしていけばよいのかを考えました。

1 乳児育児担当制について

・新指針では「**養護の重要性**」が強調されました。当園における育児担当制では担当の子どもを決めることにより子どもの育ちやその日の体調等きめ細やかに見ていくことが出来、保護者とも密に連携が取れるようになっていきます。

・同じく新指針に「養護の行き届いた環境の下に・・・」とあります。

当園は定員270名、そのうち0歳児～2歳児は118名ですが7クラスに分け少人数にし、各々の保育室は落ち着いた雰囲気心をかけています。室内は木や布を基本とし発達にあつたいろいろな種類のおもちゃを用意し、興味のあるおもちゃであそべます。育児担当制により愛着関係の築かれた保育士に見守られる中で安心して過ごすことができます。

2 幼児異年齢保育について

・新指針では外から見えやすい知的能力、学力などの「**認知能力**」だけでなく外から見えにくい心の能力、集中力・忍耐力、失敗してもめげないで上手に活かせる・自己肯定感が育っている等の「**非認知能力の大切さ**」がうたわれています。

3歳児、4歳児、5歳児の異年齢の子どもたちが毎日関わって生活する中で、保育士が教えなくても、子どもたち同士で学び合うことが多々あり、このような非認知能力が育ちやすいと考えます。

例えば年長児は自然に年下の子どもたちを助けてくれ、他人の役に立つ喜びを持ったり、その子たちにあこがれを持たれたり、自己肯定感が育つ機会が多いです。

またごっこ遊びでは、必要な道具をすべて用意するのではなく年齢の違う子どもたちが自分の考えや思いを出し合っているのを見守り、子どもたちから欲しいと要望があれば道具を用意したりしています。子どもたちはふざけているのではなく、よく考え工夫し友達の意見を取り入れ、真剣に楽しんであそんでいます。

上記のように新保育所保育指針でうたわれている「**養護の重要性**」「**非認知能力の大切さ**」にかなう保育はしていると確認は出来たものの、これでよしとするのではなくそれを深めるために保育士のかかわり方を日々反省し次に生かせるよう全職員で保育していきたいと思っています。